

令和6年度地方税制改正（税負担軽減措置等）要望事項

（ 新設 ・ 拡充 ・ 延長 ・ その他 ）

No	21	府省庁名	国土交通省
対象税目	<input checked="" type="checkbox"/> 個人住民税 <input type="checkbox"/> 法人住民税 <input type="checkbox"/> 事業税 <input type="checkbox"/> 不動産取得税 <input type="checkbox"/> 固定資産税 <input type="checkbox"/> 事業所税 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
要望項目名	特定居住用財産の譲渡損失の損益通算及び繰越控除制度の特例措置の延長		
要望内容（概要）	<p>・ 特例措置の対象（支援措置を必要とする制度の概要） 個人が、所有期間が5年を超える居住用財産を譲渡した場合において譲渡損失が発生したときは、一定の要件の下で、当該譲渡資産に係る住宅ローン残高から譲渡価額を控除した額を限度として、その年の他の所得との損益通算及び翌年以後3年以内の各年分の総所得金額等からの繰越控除を認める。</p> <p>・ 特例措置の内容 本特例措置の適用期限を2年間（令和7年12月31日まで）延長する。</p>		
関係条文	地方税法第32条第2項、第313条第2項、附則第4条の2 地方税法施行令附則第4条の2、地方税法施行規則附則第2条の2 租税特別措置法第41条の5の2、租税特別措置法施行令第26条の7の2 租税特別措置法施行規則第18条の26		
減収見込額	[初年度] — (▲101) [改正増減収額] —	[平年度] — (▲236)	(単位：百万円)
要望理由	<p>(1) 政策目的 住宅を売却して賃貸住宅等に住み替えようとする者にとって、売却する住宅の住宅ローンを返済しきれないことが住替えの支障とならないようにするため、持家の買換えを行うか否かにかかわらず、譲渡損失の繰越控除を認めることにより、ライフステージ等に応じた円滑な住替えを支援する。</p> <p>(2) 施策の必要性 良質な住宅ストックの形成を図るとともに、多様なライフスタイル、ライフステージに応じた住まいを選択できる環境を整備することは、住宅政策上重要な課題である。例えば、子供の人数に応じた子育て世帯の広い住宅への住替えや、高齢者世帯の耐震性・バリアフリー性能など必要な機能を備えた住宅への住替えなど、多様な住宅ニーズが存在し、豊かな住生活の実現のためには、当該ニーズに応じた円滑な住替えを促進することが重要である。</p> <p>一方で、住宅ローンが残る居住用財産を売却し、譲渡の対価をローンの返済に充てた上で、住替えを余儀なくされる者（リストラや事業の失敗により所得が減った者等）も存在し、その住替えを支援することは、その者の生活再建の観点からも重要であり、当該措置が必要である。</p>		
本要望に対応する縮減案	—		

合理性	政策体系における政策目的の位置付け	<p>○住生活基本計画（全国計画）（令和3年3月19日閣議決定） （目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを産み育てやすく良質な住宅の確保 ・高齢者、障害者等が健康で安心して暮らせる住まいの確保 ・住宅確保要配慮者（低額所得者、高齢者、障害者、外国人等）の住まいの確保 ・ライフスタイルに合わせた柔軟な住替えを可能とする既存住宅流通の活性化 <p>（基本的な施策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住宅の年収倍率の上昇等を踏まえ、時間に追われる若年世帯・子育て世帯の都心居住ニーズもかなえる住宅取得の推進」 ・「駅近等の利便性重視の共働き・子育て世帯等に配慮し、利便性や規模等を総合的にとらえて住宅取得を推進。子どもの人数、生活状況等に応じた柔軟な住替えの推進」 <p>（成果指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅流通及びリフォームの市場規模 <p><国土交通省政策評価体系上の位置付け></p> <p>政策目標 1 少子・高齢化等に対応した住生活の安定の確保及び向上の促進 施策目標 2 住宅の取得・賃貸・管理・修繕が円滑に行われる住宅市場を整備する 業績指標 6 既存住宅流通及びリフォームの市場規模</p>				
	政策の達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅流通及びリフォームの市場規模 14兆円（令和12年） 				
	<table border="1"> <tr> <td>税負担軽減措置等の適用又は延長期間</td> <td>2年間（令和6年1月1日～令和7年12月31日）</td> </tr> <tr> <td>同上の期間中の達成目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅流通及びリフォームの市場規模 13兆円（令和7年） </td> </tr> </table>	税負担軽減措置等の適用又は延長期間	2年間（令和6年1月1日～令和7年12月31日）	同上の期間中の達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅流通及びリフォームの市場規模 13兆円（令和7年） 	
	税負担軽減措置等の適用又は延長期間	2年間（令和6年1月1日～令和7年12月31日）				
同上の期間中の達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅流通及びリフォームの市場規模 13兆円（令和7年） 					
政策目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅流通及びリフォームの市場規模 12兆円（平成30年） 					
有効性	要望の措置の適用見込み	338件（令和2年と令和3年の平均より）				
	要望の措置の効果見込み （手段としての有効性）	<p>住替えにあたっては、含み損を抱える世帯は譲渡損失が発生することがその障害となっている。本特例措置は損益通算と繰越控除により4年間にわたって税負担を軽減し、住替えを余儀なくされる者の居住水準の急激な低下を緩和することにより、ライフステージに応じた円滑な住替えを支援する手段として有効である。</p>				
相当性	当該要望項目以外の税制上の支援措置	<p>特定の居住用財産の譲渡損失の損益通算及び繰越控除制度（所得税） （租税特別措置法第41条の5の2）</p>				
	予算上の措置等の要求内容及び金額	—				

	上記の予算上の措置等と要望項目との関係	—																	
	要望の措置の妥当性	<p>住み替える国民一人一人が個別に補助申請を行い、認定を受け、補助金を受給する仕組みを新たに設けるよりも、確定申告の際に減税の手続も併せて行い税の減免を受けられる仕組みとする方が、国民及び行政双方の手続負担の軽減や公平な支援の実現の観点から優れている。</p>																	
<p>税負担軽減措置等の適用実績</p>	<table border="1" data-bbox="384 528 1525 763"> <thead> <tr> <th></th> <th>適用件数</th> <th>減収額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年</td> <td>538 件</td> <td>398 百万円</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年</td> <td>428 件</td> <td>298 百万円</td> </tr> <tr> <td>令和元年</td> <td>375 件</td> <td>261 百万円</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年</td> <td>336 件</td> <td>247 百万円</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年</td> <td>341 件</td> <td>251 百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※減収額については、過去の要望時の減収見込み額の算出にあたって用いた適用見込み件数を適用件数の実績値に置き換えて再計算することにより推計したもの。</p>		適用件数	減収額	平成 29 年	538 件	398 百万円	平成 30 年	428 件	298 百万円	令和元年	375 件	261 百万円	令和 2 年	336 件	247 百万円	令和 3 年	341 件	251 百万円
	適用件数	減収額																	
平成 29 年	538 件	398 百万円																	
平成 30 年	428 件	298 百万円																	
令和元年	375 件	261 百万円																	
令和 2 年	336 件	247 百万円																	
令和 3 年	341 件	251 百万円																	
	「地方税における税負担軽減措置等の適用状況等に関する報告書」における適用実績	—																	
<p>税負担軽減措置等の適用による効果（手段としての有効性）</p>	<p>ライフステージ等に応じた賃貸住宅等への住替えを支援するためには、買換えの有無を問わず譲渡損失の問題に対応することが必要であり、本特例措置は、ローン返済困難者等に対し自助努力を促しながら幅広く効果的に支援を行う施策として、大きく貢献している。</p>																		
<p>前回要望時の達成目標</p>	<p>・ 既存住宅流通及びリフォームの市場規模 14 兆円（令和 12 年）</p>																		
<p>前回要望時からの達成度及び目標に達していない場合の理由</p>	<p>目標期間が満了していないため現時点で目標達成の成否を評価することは困難であるが、住生活基本計画に基づき、引き続き良質な住宅ストックの形成を目指す。</p>																		
<p>これまでの要望経緯</p>	<p>平成 16 年度 創設 平成 19、22、24、26、28、30 年度 延長 令和 2、4 年度 延長</p>																		